

蚊が媒介する主な感染症

	日本脳炎	デング熱	マラリア
媒介する蚊と主な活動時間	コガタアカイエカ 日没～夜間	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど 日中にも活動	ハマダラカ 夜間を中心に活動
主な発生地域	日本、中国、東南アジア、南アジアなど	東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国	東南アジア、アフリカ、中南米など
潜伏期間	1～2週間	2～15日 (多くは3～7日)	7～40日くらい
主な症状	急激な発熱と頭痛、吐気・おう吐、意識障害等	突然の高熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、体幹から始まる発疹等	発熱、悪寒、倦怠感、頭痛、筋肉痛、関節痛

※蚊に刺された後、高い熱が出るなどした場合は、近隣の医療機関を受診しましょう。

感染症に関する相談窓口 (平日 8:30～17:15)

下関市立下関保健所 電話 083-231-1530	山口健康福祉センター防府支所 電話 0835-22-3740
岩国健康福祉センター 電話 0827-29-1521	宇部健康福祉センター 電話 0836-31-3200
柳井健康福祉センター 電話 0820-22-3631	長門健康福祉センター 電話 0837-22-2811
周南健康福祉センター 電話 0834-33-6423	萩健康福祉センター 電話 0838-25-2667
山口健康福祉センター 電話 083-934-2533	県健康増進課 電話 083-933-2956

忘れていませんか？蚊の対策

病原体を保有した蚊にヒトが刺されることによって引き起こされる感染症のことを「かばいかいかんせんしょう蚊媒介感染症」と

言います。

世界的に蚊が媒介する感染症は多く存在し、特に亜熱帯や熱帯で広く流行しているため、日本では、海外旅行から帰国後に発症するケースが多く見られました。

こうした中、平成26年8月、約60年以上ぶりに日本国内で感染したと思われる「デング熱」の患者が確認されました。

交通・輸送網の急速な発達にともない、海外の感染症流行地域から病原体を保有する蚊が侵入する可能性が指摘されているだけでなく、日本国内にも感染を媒介する種類の蚊が存在するため、県民の皆様にも、日ごろから蚊の対策を心がけていただくようお願いいたします。



- ① 蚊に刺されない！
- ② 蚊を増やさない！

平成26年9月

山口県健康福祉部健康増進課

①蚊に刺されない！

蚊の多くは日没～夜間に活動します。(デング熱を媒介する蚊は、日中にも活動します。)

蚊の活動時間に外出する際、また草むらや山などに入る際は、蚊に刺されないよう対策をしましょう。



ヒトスジシマカ (デングウイルスを媒介する危険性のある蚊)

- 網戸の破れを修理したり、扉・窓の開閉時間を短くしたいしましょう
- 肌の露出を減らしましょう
 - 長そで、長ズボン、靴下を着用する
 - 素足にサンダル履きは避ける
- 虫よけ剤（ティート）や、蚊取り線香などを上手に使いましょう
 - お子様（特に乳児）への虫よけ剤（ティート）の使用については医師に相談してください
- 日本脳炎にはワクチンがあります。お子様が定期接種の対象年齢になったら、早めにワクチンを接種しましょう

②蚊を増やさない！

蚊は、ごくわずかな水たまりでも産卵することが分かっています。定期的に家の周囲を点検し、蚊の発生源になりやすい水たまりや草むらをチェックしましょう。

《主なチェックポイント》

- 空き缶やペットボトル、空きビンなどが放置されていませんか
- 庭の散水用に雨水をためている場合、定期的（1週間に1回）に水抜きする等していますか。
- 植木鉢の水受け皿に水がたまっただまになっていませんか
- 雨どいや側溝が詰まって水がたまっていますか。
- ビニールシート（ブルーシート）のたるみに水がたまっていますか
- 古タイヤの中に水がたまっていますか
- 注水タイプの旗立てや物干し用ベースのフタがとれたままになっていませんか
- お墓の花立てに水がたまっただまになっていませんか
- 蚊の潜み場所になるヤブや草むらがあれば、雑草や樹木は定期的に刈り取り、剪定をして管理しましょう

殺虫剤による蚊の駆除は一時的には効果がありますが、長続きしません。また、使い過ぎによる人体や環境への影響も考えなくてはなりません。そのため、殺虫剤は補助的に使用し、蚊の発生自体を抑え、蚊に刺されない対策を行うことが大切です。